



南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成27年5月30日

校長 福田 俊彦

「自分の命は自分で守る」

意識の高まりが行動を変える 行動の質を高める

校長 福田 俊彦

本日の学校公開、道徳授業地区公開講座には、多くの保護者の皆様、地域の方々にご来校いただきました。新たな学年での2ヶ月、子供たちの成長をどのようにご覧いただけただでしょうか。

さて、「熱中症は、なめたらあかん。」というポスターが届きました。熱中症は、予防が大事で、「自分もなるかもしれない。」と捉えること、こまめに水分補給し、涼しい服装などで示されていました。特に、この時期は、暑さに慣れてなく、梅雨時の湿度も要注意です。学校では、熱中症の予防として、例年のように上記の内容を繰り返し指導していきます。健康への意識の高まりは、行動の質を変えていきます。

毎月行っている避難訓練にも子供の行動の変容を見ることができます。ある地域の方がお話をしてくださいました。「地震の揺れを感じた時、子供たちは既に机の下に身を隠しています。」避難訓練は、子供が「地震」「火事」などの発災に際し、どこにいても身を守る行動ができること、全員が安全に避難できることをめざしています。南町小学校の子供の多くは、「おさない」「かけない」「しゃべらない」「もどらない」の基本行動ができます。どうしてそのような行動をしなければならないのかを理解しているからです。「自分の命は自分で守る」行動ができるようになることは、「仲間の命を守る」ことにもなります。今年も、全員が「お・か・し・も」の行動ができることに近づけていきます。5月の避難訓練（火災を想定）では、子供が子供をはぐくむ場面を見ることもできました。校庭への避難時、2年生から6年生の避難行動はすばらしいものでした。その行動、態度を見て、1年生が整然と避難することができました。もし、上学年の子供たちがざわついていたらどうでしょう。身の安全を守る力は、子供が子供の姿から学ぶことでも高まっています。

身の安全を守る力の向上は、今後更に強く求められていきます。子供を取り巻く環境について考えれば明らかなことではないでしょうか。危険の内容が多様化しているからです。危険を察知する力、危険を予測し回避する力は、日常の生活の中にも大なり小なりあります。多くの方々がそれを体験していることでしょう。以前このようなことがありました。横断歩道で待っている方が、青信号で渡ろうとした目の前を、自転車が横切っていました。見ている私は驚きました。「危ない。」と思いました。当事者も驚いたことでしょう。少しの差で大きな事故につながりかねない状況です。幸いにもこの時は大きな事故につながりませんでした。

ご家庭におかれましても、身の安全を守る話を継続的に取り上げていただければと思います。みんなの子供をみんなで守り、育てることを、今後とも宜しくお願いします。